

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

奥の細道
むすびの地
大垣

令和七年十二月度 入賞句一覧 投句数 千百五十七句

特選

高木 佐知子 選

ぼくはもう秋の七草おぼえたよ

大垣市

佐々木 悠（小四）

秋の野山を彩る代表的な植物が秋の七草といわれています。女郎花（おみなえし）、薄（すすき）、桔梗（ききょう）、撫子（なでしこ）、藤袴（ふじばかま）、葛（くず）、萩（はぎ）という植物の名を覚えて、すらすらと言う作者の誇らしげな表情が「ぼくはもう」の上五から読み取れます。「おすきなふくは？」という覚え方があるのですが、どのように覚えたのかを聞いてみたくなります。読み手も覚えていたくなることでしよう。やる気を起させる一句になります。

カメムシがせんたくものから出てきたよ

大垣市

戸田 台晟（小二）

お天気の良い日は、洗濯物を外に干します。しかし夕方になると少し寒くなる日もあるでしょう。そんな時、カメムシは暖かい場所を探して洗濯物の中に潜り込むのです。「せんたくものから出てきたよ」の表現から、突然現れたカメムシに作者がびっくりしたことがよくわかります。見つけた時に慌てて触ると悪臭を放ちます。そつとティッシュにつつま外へ出します。多くの人が経験することを俳句の種にしたことで、その通り！と共感できる一句になります。

あきの木はいろいろいた葉をだいて立つ

岡山県倉敷市

岡崎 あおば（小三）

秋が深まり気温が急激に下がると、木々が紅葉するといわれています。赤や黄色、オレンジ色などに色づいた木立が、あちらこちらで見られる光景は本当に美しいです。きれいに色づいた葉をしつかりと抱いて立つという、木があたかも人間であるかのように表現しているところ（擬人法）が、力強さと情愛を表しているように感じます。やがて落葉となつて色づいた葉が散るところも見えてくるような素敵な一句です。

秀逸

ふろあがりアイスを一口あたりでた

大垣市

高木 萩矢（小三）

さわやかにながれるかわにささぶねを

大垣市

山田 瑞歩（小四）

冬のかぜ吹くだけでんをうならせる

大垣市

香村 悠月（小五）

みかん食べきいなくなった大きな手

大垣市

澤田 健吾（小五）

いちようのはきいろくそまるさんぽみち

大垣市

上野 愛月（小四）

かじかむ手はーつと息をふきかける

大垣市

野崎 友里（小六）

秋はじめどく書が進み時すぎる

大垣市

小坂 茅佐（小六）

ピカピカとイルミネーション目もひかる

大垣市

川さき りおな（小三）

どんぐりをひろいにいくとまだあつた

大垣市

日比野 陽太（小三）

クリスマスぼくのきもちはとどくかな

大垣市

こやす ひろと（小三）

入選

ふくわらいめとくちあわせばのお

大垣市

さとう 咲帆（小二）

秋涼し優秀作文朗読す

大垣市

中村 朱里（小四）

特別なリンゴケーキの誕生日

大垣市

陸田 峻生（小四）

鯛雲トロンボーンの音ひびく

大垣市

市川 棕一（小六）

おおみそかおすしがだいのにんきもの

大垣市

大脇 知晃（小二）

クリスマスキラキラひかるまちのなか

大垣市

おく田 こう矢（小三）

かぜふいてギンナンのみが落ちてくる

大垣市

富田 精佑（小三）

かぞくがねせまいこたつをとりあつこ

大垣市

松岡 采音（小三）

運動会ゴール目前ずっこける

大垣市

佐藤 祐（小四）

かかしさん田んぼを守りお手つだい

大垣市

荒谷 桃我（小四）

むしのこえチンチロチンとうたったよ

大垣市

久野 菜々美（小四）

あきのかわふねがゆらゆらおちそうだ

大垣市

内とう しゅう一（小四）

ふなくだりいつもとちがうあきのかわ

大垣市

松本 柚希（小四）

どこにでも食べあところぞくまのあと

大垣市

高木 茉乃（小五）

いえのにわまいとしほったさつまいも

大垣市

亀谷 勇人（小五）

こたつでねテレビ見ながら毛糸編む

大垣市

北川 凌大（小五）

やきいものにおいただようはらぺこだ

大垣市

川瀬 妃桜（小六）

おせちはねおいしい数の子もういつこだ

大垣市

松田 葉奈（小四）

ゆらゆらとなびき輝く黄金稲

大垣市

伊藤 里依香（小六）

水門川うかぶ水鳥ゆつたりと

揖斐郡池田町

井口 暁雅（小五）

選者吟

小春日や手帳にひろふ葉の欠片

佐知子

小中学生の部

